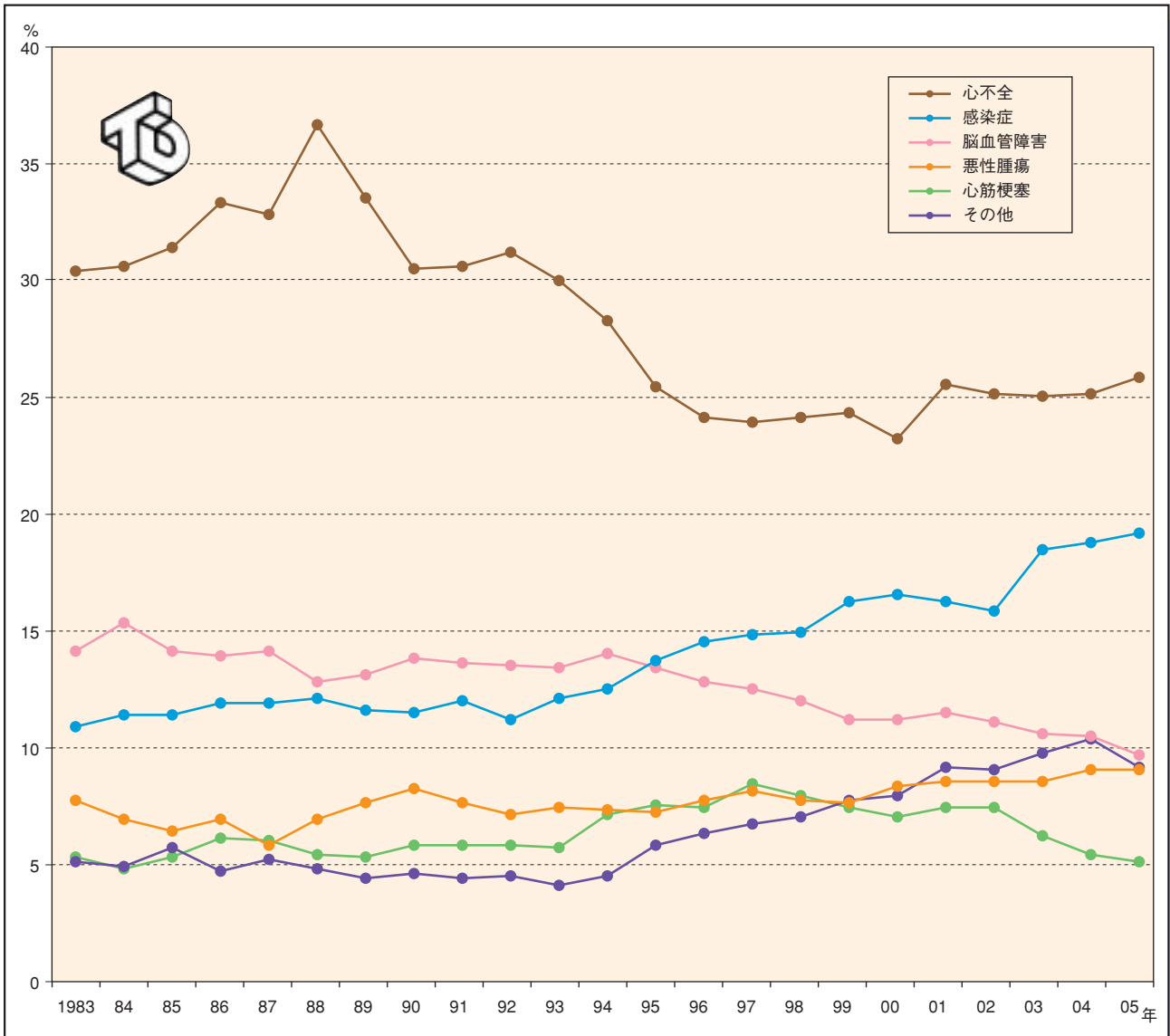


5) 死亡原因

(4) 年別死亡原因の推移 (図表19)



年	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
心不全	30.3	30.5	31.3	33.2	32.7	36.5	33.4	30.4	30.5	31.1	29.9	28.2	25.4	24.1	23.9	24.1	24.3	23.2	25.5	25.1	25.0	25.1	25.8
感染症	11.0	11.5	11.5	12.0	12.0	12.2	11.7	11.6	12.1	11.3	12.2	12.6	13.8	14.6	14.9	15.0	16.3	16.6	16.3	15.9	18.5	18.8	19.2
脳血管障害	14.2	15.4	14.2	14.0	14.2	12.9	13.2	13.9	13.7	13.6	13.5	14.1	13.5	12.9	12.6	12.1	11.3	11.3	11.6	11.2	10.7	10.6	9.8
悪性腫瘍	7.7	6.9	6.4	6.9	5.8	6.9	7.6	8.2	7.6	7.1	7.4	7.3	7.2	7.7	8.1	7.7	7.6	8.3	8.5	8.5	8.5	9.0	9.0
心筋梗塞	5.3	4.8	5.3	6.1	6.0	5.4	5.3	5.8	5.8	5.8	5.7	7.1	7.5	7.4	8.4	7.9	7.4	7.0	7.4	7.4	6.2	5.4	5.1
その他	5.1	4.9	5.7	4.7	5.2	4.8	4.4	4.6	4.4	4.5	4.1	4.5	5.8	6.3	6.7	7.0	7.7	7.9	9.1	9.0	9.7	10.3	9.1

解説

年別死亡原因の推移

死亡原因の第1位は心不全です。2000年までは減少傾向がみられましたが、2001年よりやや増加傾向がみられ、全体の25.8%を占めます。第2位は感染症ですが、2003年より急増し、2005年は19.2%と増加していることが認められます。この理由として抵抗力の減弱した高齢者や糖尿病による患者数の増加が影響していると考えられます。これに対して脳血管障害は9.8%と減少傾向にあり、血压管理が良好になされている可能性があります。心筋梗塞も昨年の5.4%より5.1%と減少傾向にみられ、血管石灰化や冠動脈硬化症の合併が著しく増加している状況にもかかわらず、カテーテルインターベンション(PTCA)やCABGの普及、薬物による治療効果が実を結んでいるため死亡者は減少していると推測されます。